

経営理念	<p>【保育目標】おひさまとなかよしひがしっ子 【経営目標】『子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす</p> <p><子ども像>○友達とかかわり、思いやれる子ども ○自ら遊びを作りだす子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども <保育所像>○一人一人の子どもを大切にする保育所 ○保護者の子育てを支援する保育所 ○保幼小の連携を大切にする保育所 <保育士像>○子どもとの信頼関係を大切にする保育士 ○保護者とのよりよい信頼関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切にする保育士 ○意欲を育み環境を考える保育士</p>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	○ 遊びの充実のための環境整備	① 子どもの育ちや発達 の連続性を学びながら環境の見直しを行う。	ブロック別研修会を通して発達の連続性を学び、今の子どもの楽しんでいることや育ちを共有し、意識して環境を整えるようになった。体を動かして遊ぶ環境や遊びを提供し、継続的に取り組んだことで、体を動かして遊ぶことを楽しむ子どもが増えた。共有スペースや園庭の環境を整えることは課題が残った。	B	指定事業を受け、子どもたちの発達に即した教材作りや環境構成を整えるよう保育者同士のベクトルに合わせて取り組むことができている。今後も更なる研究推進に期待する。	B	発達段階を追って遊びの内容を充実させていけるように、職員間で発達の共有をしていく。共有スペースの使用時間や環境設定等の情報交換を定期的に行い、環境整備は計画的に行う。
	② 子ども理解に努め、特性や発達のねらいに適した保育の援助と振り返りを行う。	発達段階を捉えながら、子どもが何を楽しんでいるのか探り、保育者同士で話し合うことで、クラス全体や一人一人の子どもの実態に応じた環境や援助を振り返ることができ、意欲が向上した子どもが60%。その時々の子どもの姿に対して環境や援助を臨機応変に対応していくことは十分でなかった。	B	一人一人の子どもの実態に応じた環境構成や支援ができており、子どもの興味や関心、意欲の向上が見られる。遊びが見つからない子どもがいないよう環境構成に努めてほしい。	A	子どもを肯定的・多面的に捉えながら、職員間で共通理解し、子どもの発達や思いに寄り添えるような援助や環境構成を行う。	
	③ 子どもが心を動かしている機会を大切にする援助を行う。	一人一人の気持ちに寄り添い、思いを丁寧に受け止めてきたことで、人との関わりを楽しんだり、思いを言葉で伝えたりする子どもが増え、意欲が向上した子どもが60%以上。子どもが自ら表現したり伝えたりする場面で、保育者が子どもの気持ちを察して先走ってしまうことが課題である。	B	保育者一人一人の見方ではなく、話し合いの場をもつことで多面的な捉えになり成果につながっている。友達と関わり合い、思いやりの心や態度の育成、そして行動化へさらに支援の工夫をお願いしたい。	B	日々の保育の中で一人一人の思いを受け止め、子どもが自分らしさを発揮でき、自分で行動できるような関わりを意識していく。	
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制づくり	① 教材研究について園全体と個人の両面から学んでいくことで、保育環境の充実や職員の資質向上を目指す。	保育の引き出しを増やそうと保育者同士で教材や環境について話し合う場が増え、環境作りや教材の選び方等意識して設定するようになった。教材研究で学んだことを保育の中に積極的に取り入れ、実践に生かすことができた。	B	限られた時間の中で教材研究に務められていた。今後も充実した保育内容につなげるためにも引き続き保育者自身が様々な素材の特性を知り、保育に生かせるように研究していったほしい。	B	子どもが選択し、考えて遊ぶことができる環境の工夫や子どもの興味・関心に合った素材や用具について話し合い、研究を継続して行う。
	② 職員間で研修内容を共有し、主体的に取り組む。	研修を通して多様な意見や考えを聞くことで、普段の保育に対しての課題が具体的にわかり、援助や環境を見直すことができた。事前事後の話し合いを通して、全職員で共有することができ、学びを実践につなげ、情報共有できた。お互いの学びを自分の保育に意識して取り組んだ保育者が70%以上。	A	全職員で研究推進に取り組めており、職員間の課題共有や共通実践もベクトルに合わせて取り組んでいる。	A	課題や保育内容についての方向性を共有するために、職員間でコミュニケーションを取ったり各年齢と連携を図ったりする機会を継続して行う。互いの保育室の環境を見合い、気付いたことを伝えたり学んだことを保育の中に取り入れていく。	
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に親しまれる保育所づくりに努める	① 子どもが経験していることや育ちを意識して情報発信を行う。	園での子どもの姿や成長している場面を具体的に伝えていくことで、子どもの成長と一緒に喜び合ったり、考えたりすることができた。保護者に対して今経験している遊びからどのような育ちが見られているのか、今後見られそうなのか等の内容について定期的に便りやドキュメンテーションで伝えることは不十分だった。	B	保護者アンケートを見ても、保育所の取り組みや情報伝達等全ての項目で95%以上の肯定的評価(強肯定も9割弱)をほぼ得ており、保護者に信頼される園づくりができている。	A	便りやドキュメンテーションを活用し、遊びの中で子どもが何を体験し、どのような学びや育ちにつながっているのかを、定期的に分かりやすく発信していく。
	② 地域や自然・人・場所等を活用して、地域に親しみ、地域とつながれる保育を行う。	地域の人との出会いを大切に、親しみをもって関わることができるように努めた結果、子どもが地域の人的・物的資源に興味を示す姿につながった。地域の方と継続して交流したり保護者に伝えたりすることは不十分だった。	B	職員が地域の方々に親しみの気持ちをもっていたり、関心が向くような言葉がけをしていったことが、人との出会いを喜んだり、関わりを楽しみにする子どもの姿につながっている。今後も地域から大切にされていることを子どもや保護者に発信してほしい。	B	地域の方や自然と触れ合う機会を多く取り入れ、子どもが心動かされる場面を見逃さず保護者に発信し、地域とつながることができる保育を継続していく。	

【評価基準】A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要